

初心忘るべからず

校長 大谷 慎也

「春告草」と親しまれている梅が早くもほころび、立春を迎えます。学校では、3年生から県内外の私立高等学校等を中心とした入学試験の結果が報告され、春が告げられています。梅には、さらに「好文木」という別称があり、古代中国の晋の武帝による「文（学問）に親しめば梅開き、疎かにすると梅開かず」という故事に由来するという説があります。勉学に励んだ結果が花を咲かせたのでしょうか。

さて、第1学年では、1月15日（水）から17日（金）までの3日間「さいたま市中学生職場体験事業『未来（みら）くるワーク体験』」を実施しました。地域の事業所の方々には、この度も大変お世話になりました。地域の事業所のご関係者から、先日実施後のアンケートの回答をいただきました。1通1通から活動中の生徒の様子とともに事業所の方々のお心遣い等が目に浮かぶようでした。

本事業を通じて、これまで私自身が感動を覚え、学ばせていただいたエピソードがいくつもあります。その中から一つを紹介します。以下は、数年前に、実施後しばらく経って学校に届いた手紙です。

（略）このたびは、〇〇〇〇店での中学生職場体験事業「未来（みら）くるワーク体験」に御参加いただいた生徒様からのお礼状をご郵送いただきまして、ありがとうございます。

誠に勝手ではございますが、〇〇店は8月30日（日）を持ちまして、閉店させていただきました。御迷惑をお掛けし、申し訳ございませんでした。

生徒様からのお礼状は、〇〇店従業員の最後の懇親会の席上で、店長及び店長代行より従業員に読み上げさせていただきました。生徒の皆様方の一生懸命さが伝わり、逆に私どもが元気を頂戴いたしました。

（略）

生徒の礼状は、店長様の最後のご挨拶の際に読まれたそうです。店長様は、礼状を読んでいるうちに感極まり、店長代行様に代読を頼んだそうです。その理由は、「一つの野菜を丁寧に袋に詰めたり、商品の賞味期限を細かくチェックしたり、細かな気遣いがとても大切なんだと感じました。」という礼状の文章の一節に、改めて「初心忘るべからず」という言葉の重さを感じたからだそうです。そして、生徒に大切なことを教えてもらい、ぜひお礼を伝えてほしいとのことでした。

「未来（みら）くるワーク体験」は、生徒に望ましい勤労観や職業観をはぐくみ、学ぶことの意義や将来の自分の生き方を考える機会とすることをねらいとしています。3日間という短い時間ではありますが、生徒は、店長様をはじめ、事業所の皆様の「初心忘るべからず」というプロフェッショナルの精神を学びました。そして、働いている方々の仕事に厳しくも美しい姿に尊敬の念を抱くこととなりました。このことは、商品への細心の「注意」と表現するところを、「気遣い」と表しているところからもうかがえます。店長様が日々当たり前のことと思っていたことが、生徒の純粹な心に響き、自分の生き方をも考える大きな気付きとなりました。

令和2年が始まり1か月が過ぎました。生徒も職員も「初心忘るべからず」の精神で臨み、持てる力を十分に発揮してほしいと考えています。保護者の皆様、地域の皆様、心よりご支援をお願い申し上げます。